企業だって森づくり♪

株式会社荘内銀行 & 山形ゼロックス株式会社 編

（株）荘内銀行と山形ゼロックス（株）は、平成22年4月から金山町で森づくり活動を始めた同級生。これまで両社それぞれが金山町の皆さんと交流を深めながら、木を植えたり下刈りをしたり充実した活動を進めてきました。

そして25年10月には、絆の森企業初の試み、両社がコラボして〝かねやま絆の森 秋の合同活動〟を開催しました。

今回は運営を担当している（株）荘内銀行ふるさと振興室 奥山弥寿之さん、山形ゼロックス（株）経営企画室 横山あずささんにお話をお伺いしました。

― コラボ開催のきっかけは？

［奥山］私たちが絆の森に参加したのは、CO2の削減といった大きな課題に取り組むだけでなく、行内コミュニケーションの活性化や地域の林業・農業に関する知識やノウハウを蓄積し、新分野に挑戦していく「新たな銀行像」を創り上げていきたいということも目的としているからです。山形ゼロックスさんとは同じ金山町で同じパートナー（森林所有者の（有）三英クラフト）と実施している「絆の森4年生」同士ということで、今回の活動を企画しました。双方合わせて100名を超える参加者が集いました。

［横山］荘内銀行さんの活動には刺激を受けていましたし、それぞれの活動をお互いが取り入れることによって企画の幅が広がると考え、今回ご一緒させていただくことになりました。

― 社員の反応はいかがですか。

［横山］荘内銀行さんにならって今回初めて家族参加のプログラムを企画しました。初参加の社員からは「興味はあったけど子どもが小さいから参加は諦めていた。今回の案内を見てすぐ申しこみました！」という声が寄せられました。実際、企画した3コースのうち家族で体験できる「食体験（うどん打ち）＋下刈りコース」の申込みが一番早く埋まりました。

［奥山］同じ金山町のフィールドでもロケーションが全然違うんです。私たちの活動地は山の中に抱かれている印象ですが、山形ゼロックスさんの活動地は田畑や集落が見渡せる場所です。今回お互いのフィールドを行き来してみて、私どもの参加者も「こんなに違うものなんだ」と里山の懐の深さを感じていました。

― 担当者としてのご苦労は？

［横山］当社は他の企業（お客様）も受け入れながら、作業内容により毎回活動場所が変わります。その中で参加者同士垣根のないフラットな雰囲気づくりを心掛けています。

［奥山］やはり野外活動ですので安全管理には気を配っています。あとは休日の活動なので、ほかのイベントと重ならないように調整するのが大変なぐらいでしょうか。でも、みんな金山町が好きになって県内外の支店から集まってくれますので支店を超えたコミュニケーションの場として大いに役立っています。

25年10月5日 絆の森コラボ企画

両社のリーダーたちが分担して3コースを運営し、そのあと合流して一緒に活動・交流

① 枝打ち+収穫体験コース
② 自然観察+下刈りコース
③ 食体験+下刈りコース

▶ ・フォトフレーム作り ・企業交流会

山形ゼロックス（株）経営企画室▶
横山 あずさ さん

★ やまがた絆の森プロジェクト ★
企業等と森林所有者と県との三者協定による森づくり活動。現在27社・団体、22箇所で活動を展開中。

まだまだ伝えきれないお2人の想い。詳しくはHPでcheck!!
■（株）荘内銀行 http://www.shonai.co.jp/investor/contribute/index.htm
■山形ゼロックス（株） http://www.yamagata-xerox.co.jp/

― お二人とも金山町にゾッコンですね。

［横山］4年間で役場の方や森林所有者さんとは何でも相談できる間柄になり、いろんなアイディアが生れます。地域の方からも声をかけてもらえるようになり、応援してもらっていると感じます。

［奥山］この町には森に関する全てがそろっていると感じます。森づくりに汗を流せるフィールドがあり、山菜やキノコなどの林産物が豊富に採れる収穫の場があり、見渡せば金山住宅という風格ある家が建ち並ぶ。街並み（景観）づくり100年運動を展開されているだけに町民の意識の高さも感じます。私たちも街歩きの楽しさを教えてもらい、プログラムに組み入れさせてもらいました。

［横山］そうですね。訪れた人を魅了する素敵な場所で、みんな「金山ファン」になるんです。山形にいるのに金山の天気が気になったり、スーパーで金山産の農産物を見つけうれしかったり（笑）。

― 金山町では、今年、全国育樹祭が開催されます。

［奥山］私どもでは、平成25年度から「やまがた社会貢献基金」に3年間に渡って寄付を行い、「森・川・海」と繋がる県民活動を支援しています。初年度である平成25年度は「全国育樹祭プレ活動『金山みどりいっぱい緑化事業』」を支援させていただきました。また今年の4月の活動では木製プランターを手作りし、景観を彩るお手伝いをさせていただきます。

［横山］お世話になっている金山町で全国規模のイベントが開催されることはすごくうれしいです。私たちもお役に立てればと考えています。また、当社の今年の活動では「金山町の森から海への贈り物」を計画しています。金山町の森への感謝を込めて、今年の第38回全国育樹祭と平成28年第36回全国豊かな海づくり大会をつなぐ取組みができればと思い、所有者さんと企画中です。

― 今後の抱負をお聞かせください。

［横山］私たちは森からたくさんの恵みを受けて暮らしています。当たり前のことなのに普段の生活ではなかなか気づかない山形の『タカラモノ』です。より多くの方々に参加していただき、この『タカラモノ』を感じてもらい、未来の山形に引き継いでいきたいですね。

［奥山］今、金山町をはじめとする里山地域が注目を集めています。県が提唱している森林（モリ）ノミクス（里地・里山の資源を活用した地域再生の戦略）の実践の場となるからです。私どもでは、これからも地域振興に取り組んでいきますが、そのためには、企業を含めた地域内の結びつきを強めることが重要であることは言うまでもなく、その具体例がまさに絆の森の取組みだと感じています。この取組みによって社内コミュニケーションが活発になり、異業種の方々と連携することでお互いの知識やノウハウ、アイディアを共有できることを実感できました。今後とも地域に貢献できるよう地元の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思います。『一緒に森へ行きませんか？』

◀（株）荘内銀行ふるさと振興室
奥山 弥寿之 さん

読者プレゼント
（有）三英クラフト社製「ラクチェア」を抽選で2名様にプレゼント。
詳しくはP15をご覧ください！